

北信教育事務所だより

令和8年8月20日発行 Vol.3

(イラストはGeminiにて作成)

2学期は登校日数や行事等が多く、エネルギーを必要とする学期かもしれません。
しかし、それは子どもの輝く瞬間に多く立ち会えるということでもあります。
実り多く、ワクワクする時間になるよう、先生方を応援していきます。

エデュ・チェンジメーカーズ・ラボ

～自身のつよみや個性を磨き、新たな視点をもって一步ふみだす～



エデュ・チェンジメーカーズ・ラボは、北信教育事務所独自の、希望参加型の通年で行う研修です。参加者が自身のつよみや個性を磨きながら、理想の学校の具現に向けて何ができるか、何をしていくのかを考え合います。

参加している先生方の理想の学校



子どもや先生方の得意や個性が発揮される学校。子どもが友だちや大人と協働して学びを深め、生活をつくっていくことができる学校。

子どもが自分で考え、行動し、願いや思いを実現することができる
素地を身につけ、自分の人生に希望をもつことができる学校。



1学期に行った研修を紹介します

キックオフミーティング(5月18日)

チームマネジメント「チームをつくる、そだてる」

課題に対して、一人で考えるのではなく、いろいろな視点、考えをもつ仲間(同僚)と語り合うことで、よりよいアイデアが生まれますね。学校にもどって、同僚との何気ない会話を楽しんでいます。



自校の係や先生、外部機関、地域をどのようにつなげれば良いか。また、そこから期待できる効果は何かを模造紙やホワイトボードを使って整理していきましました。行政に関わる方も参加し、学校外の視点からもアイデアをいただきながらの研修でした。

個への指導(Web)(6月22日)



「その子のつよみ」を様々な立場の視点から詳細に見取り、明らかにしていくことが、その子への適切な支援につながっていくのだと気づきました。校内でも日頃の情報の共有を大事にしたいです。

架空の事例で模擬ケース会議を経験しました。

日々研へ参加(7月6日) 指導主事と共に、日々研参加者の悩みに寄り添いながら授業づくりについて考えました。

先生方も同僚の先生とお互いに理想の学校像を語り合いながら、その具現のために、ご自身のつよみをどのように生かせるか、ご自身の個性をどのように磨いていったら良いか考えてみませんか。



北信地区ブロックセッションⅡ

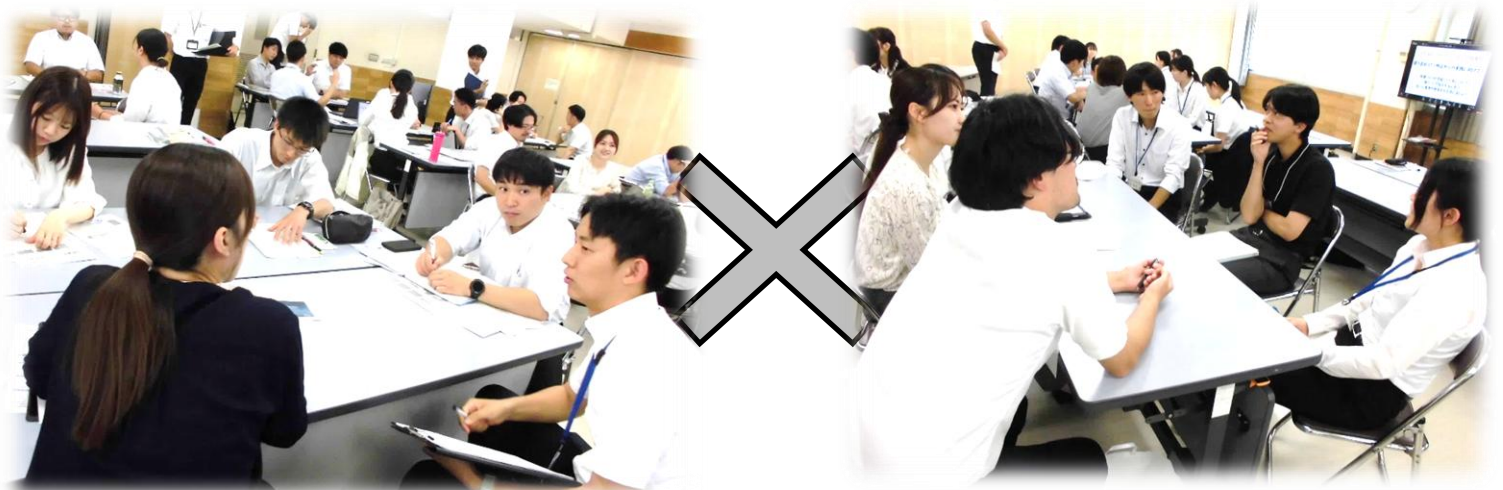
【初任者×5年経験者 ×(かける)ことで生まれる新たな気づき】



6月23日(火)初任の先生方(初)とキャリアアップ研修Ⅰ(I)の先生方との合同研修を行いました。

〈グループ討議〉

持ち寄った教材や学習記録などを紹介しながら、成果や課題をもとに、次への一步に向けて考え合いました。



次への一步



(初) アドバイスもらうことを通して、明日につなげる

次への一步



(I) 共に考え合いアドバイスすることを通して、自分の取組を見つめ返す

5年目の先生方にも悩みや不安があると知り、自分だけではないと少し安心できた。

子どもたちが楽しく学ぶための、様々な工夫を知ることができた。色々な先生方に相談しながら、子どもたちと過ごす時間を大切にしていきたい。

周りとの対話が何より大切だと思った。まずは自分が悩みを話すこと。そして、聞き合うことを通して、自分の姿も振り返られるし、新たに学ぶことができると思った。

校内で実践や思いを聞き合い、アップデートできる機会をつくっていきたい。

〈人権教育学習会〉『正しく知る』

様々な人権課題の中から同和問題を取り上げ、副読本「あけぼの」や「人権教育指導資料集」を通して、学校における人権教育について考えました。

『無知が差別を生みます』という言葉が印象に残った。自分が知ろうとすること、「知る」を伝えることを大切にしたい。

まずは自分自身が差別を知るところから始めようと思った。考えを伝えあって、人権感覚を見つめ返すことを大切にしたい。

先生方の『次への一步』は何でしょうか？
また、同僚から学ぶ機会は、どのように創出することができそうでしょうか？

経験年数が異なる方と交流することは、知識や経験の伝達、視野の広がり、新たな発見、不安の軽減などにつながります。
皆さんの職場でも、お茶を飲みながら、日々の取り組みや困りごと、悩みごとを語り合う時間をとってみてはいかがでしょうか。



「私は、ふつうの子ではなくなった。」

タイトルの言葉には「時計の数字だけを見ていた。いつ授業が始まり、終わり、いつ帰れるのかもわからなかった。」と続きます。「第1回外国につながる子ども支援充実研修会」で紹介された、日本で学ぶ、外国にルーツのある子どもの言葉です。私たちは彼らの気持ちをどう受け止め、どのようにかかわっていけばよいのでしょうか。講義や討議を通して学び合いました。



「外国につながる子どもも含めた全ての子どもが安心して学べる学級って？」文科省の中央研修動画からみんなで考えました。

インクルーシブな学級づくりについて、「気になる子を気にする子から優先的に…」というのが今後の私の課題と感じた。まず、子ども一人一人の自己肯定感を高め、集団効力感のある学級・学校をつくっていくことが大切だと思った。



同じ地域の支援者として、また地域をこえた同じ立場の支援者として、取組を紹介し合い、アドバイスし合いました。

「日本語をできるようにさせる」ではなく、「その子のよさを受け入れ、安心できる場をつくる」ことに力を入れていきたい。そのためには、その子の背景を知り、横のつながりをつくることが大切だと思った。



長野県国際化協会コーディネーターの方に、様々な教材や、いざという時に使える制度をご紹介いただきました。

様々な立場の方（地域支援者・行政の方）とお話できたのが有意義だった。地域支援者の方の「外国につながる子ども達から教わることがある」というお話を聞いて、こちらが教えてもらい学ぶ姿勢を大切にしたい。



帰国・外国人児童生徒等
教育のための情報検索
サイトはこちら ↓



かすたねっと

先生方の学校に外国につながる子どもはいますか？
彼らの背景に、思いを寄せてみましょう。

国内の在留外国人は年々増加しており、令和7年度末には400万人超となりました。多様な仲間と出会い、かかわり合う経験を通して、違いを力に変えること。外国につながる子ども達も含めたすべての子ども達が持てる力を最大限に伸ばすこと。そんなインクルーシブな教室、学校をみんなで目指していきましょう。



スポーツを通じた子どもの居場所づくり ～不登校児童・生徒等のスポーツ活動～

わくわくスポーツセミナー 実践報告

講師に神戸親和大学の松田恵示さんをお迎えし、不登校児童・生徒等の居場所となっている教育支援センターやフリースクールでスポーツを取り入れる効果、そもそも「スポーツ」とは何なのかについて、講義と実技を通して考えました。

松田先生のお話より

- ◎スポーツの楽しさとは、「自分の力に合った難しさがある」ということ。それは、人によっても違う。
- ◎できる?できない?の間を行ったり来たりすることで心が揺れ、夢中になれる。
- ◎教育支援センター等は、コンタクトの少ないネット型が好まれる。リズムがあるのもよい。



教育や学びの場での遊びの重要性や大切さに気付かされた。
(参加者)



コミュニケーションは話すことではなく、聴くことである。これを意識して生徒と接していきたい。
(参加者)

スポーツ用具の貸し出しや、校内支援ルーム・教育支援センターへの出前講座も行っています。何かありましたら、北信教育事務所へご連絡ください!



未来をひらく人権教育フェスティバル 北信地区社会人権教育研修会

全体講演会において、BURAKU HERITAGEの上川多実さんを講師にお招きし、「部落問題を通して考える日常の中の差別」という演題でご講演をいただきました。

分科会では、同和問題、女性の人権、障がいのある方の人権など、それぞれの分野でご活躍なされている講師の皆様から、実践事例を発表していただきました。

今なお差別を受け、苦しんでいる方がいる現状が理解できた。相手への理解不足に悪意が混ざり、差別行為へとつながらないように、正しい知識を身につけ、努力していきたい。【全体講演会】



障がいのある方が自分のペースで働き、夢を持って生活していることが分かり、自信を持って働ける環境の重要性を理解した。
【障がいのある方の人権】

「ジェンダーギャップは人権問題である」という講師の言葉が深く心に残っている。男性基準の社会であることに気づく重要性が理解できた。【女性の人権】



差別に対して自分が見えていない、あるいは見ようとしていない自分に気づかされた。今後、子どもに対して、また大人に対しても、共に考え学び合う機会を大切にしていきたい。【同和問題】

参加者からは、自身の固定観念や無意識の偏見に気付き、人権課題を身近なものとして捉え直すことができた等の感想が多く寄せられました。また、人権について学び続けることの重要性や、互いの違いや立場を認め合いながら対話を重ねることの大切さを改めて実感する機会となりました。先生方一人一人が人権について学び続け、その学びを日々の授業や学校生活の中で、子どもたちと共に考え、一人一人の人権が大切にされる学校づくりを進めていきましょう。